

# 2017 年度 「まちづくり演習第 1（持続可能な都市圏計画）」

土曜 3～5 限（13 時 00 分～18 時 10 分）

担当教員：横張真教授・瀬田史彦准教授・村山顕人准教授・近藤早映特任助教・T A

---

## 課題：市街地の実態を踏まえたコンパクトシティの提案

日本の各都市では現在、「コンパクトシティプラスネットワーク」の実現に向けて、都市再生特別措置法（平成 26 年 8 月改正）に基づく「立地適正化計画」の策定が進められている。コンパクトシティの効用は、利便性向上、公共サービスの効率化・高度化、賑わい創出、弱者・高齢者対応、地球環境対策など様々な側面から主張されている。しかし多くの都市では、郊外での市街地開発やモータリゼーションの進展によって市街地がすでに拡散しており、その傾向を反転させて市街地を集約するのは容易ではない。各都市は、立地適正化計画において機能の整備・誘致の対象となる「都市機能誘導区域」、市街地の集約の対象となる「居住誘導区域」の設定に悪戦苦闘している。

本演習の対象都市とする宇都宮市は、県や都市圏の中心都市として発展を続けており、現在も人口が増加傾向となっている数少ない都市である。同市は 2008 年に、総合計画の中で、土地利用の適正化、拠点化の促進、ネットワーク化の促進を目指した「ネットワーク型コンパクトシティ」の方向性をいち早く示した。現在は、立地適正化計画の策定を進めるだけでなく、L R T（新交通システム）の新規整備を含め、様々な都市政策を駆使して市街地の集約を進めようとしている。他方、郊外化は現在も進行しており、集約型の都市構造の実現は予断を許さない。

本演習では、宇都宮市を事例としてコンパクトシティのあり方を検討する。衰退する既存の中心市街地、計画で郊外拠点と位置付けられたエリア、市街化のあり方が問われる郊外住宅地など、コンパクト化の取組みにおいて議論すべき論点の多い地区をいくつか取り上げて、具体的な整備・保全方針とそのため手法について検討し、具体的な提案を行う。

宇都宮市の既存の中心市街地は、全体として衰退傾向にあるが、（再）活性化をどのような形で目指すかは、中心市街地内の各地区の性質や今後の見通しによって異なる。これまでのような複合用途の開発とは違う、中心市街地の新たな方向性・可能性を見出すことが期待されている。

計画で郊外拠点と位置付けられたエリアには、種々の公共サービスを提供する機能が求められている。しかし、そのあり方（拠点として備えるべき機能や拠点への交通アクセスなど）や、その整備主体（公共、民間企業、市民など）は、やはりエリアによって大きく異なり、そのあり方が問われている。

郊外住宅地には、計画的に開発された団地と無秩序に開発された市街地があり、基盤整備状況では前者が勝るが、駅や幹線道路からの距離など立地面では後者の条件がよい場合も多い。短絡的なコンパクト化ではなく、現状を踏まえたあるべき郊外市街地の縮退の方向性が示すことが求められている。

上に例示したような視点を踏まえ、有意義でかつ実現可能な整備のあり方を提案することが望まれる。

なお提案にあたっては、現地調査の結果や各種の文献・文書の他、G I S（地理情報システム）による空間情報の分析結果を利用することが強く推奨される。様々な種類・質の情報を短い時間で立体的に理解し、班員同士の議論を踏まえたうえで、創造的かつ説得力のある提案がなされることが期待される。

## □進め方

- ・ グループワークを基本とする。1班4～5人程度を目安に、受講生を4～5班に分ける。
- ・ 班員間のディスカッションと共同作業が演習の作業の中心となる。
- ・ 1月6日に中間ジュリー（中間講評会）を行い、各班の分析や提案の方向性について議論する。
- ・ 2月4日に最終ジュリー（最終講評会）で、演習成果物として提案を行う。

## □最終提案のイメージ

- ①GISを用いて対象地の基礎情報を分析し、図表等によってその結果をわかりやすく示す。
- ②宇都宮市全体の拠点と市街地の状況を踏まえ、市の計画（立地適正化計画・都市計画マスタープラン等）に定められている各拠点の将来の大まかな機能について考え、現在の課題を抽出する。
- ③各班に指定された対象地区について、具体的な整備・保全方針とそのための手法について検討し、具体的な提案を行う。（対象地区と論点については別紙を参照されたい。）

## □日程 時間は定時で 13:00～18:10。場所は基本 141 号教室（第 1 回は宇都宮市開催）

関連講義 「都市情報の分析Ⅱ」	GIS (QGIS) のスキル習得 (人口、土地利用、建物、交通データなどの表示や単純分析)
第 1 回 12 月 2 日	現地調査 ・ 集合時間、場所は追って連絡する。午前中から開始するが午後からの参加も可。
第 2 回 12 月 9 日	イントロダクション ・ 課題説明、レクチャー、班分け ・ GIS おさらい、基本情報と現地調査の整理 ・ 小発表（選択した拠点と大まかな作業方針について）
第 3 回 12 月 16 日	データ分析、ディスカッション、中間ジュリー準備 ・ 班員によるグループワーク ※中間ジュリーまでこの 1 日しかないので、必要に応じて各自、作業する。
第 4 回 1 月 6 日	中間ジュリー（中間講評会） ・ 13:00-16:00 で最終準備を行い、ジュリーは 16:00 からとする ・ 分析や提案の方向性を議論、講評する場とする
第 5・6 回 1 月 13・20 日	データ分析、ディスカッション、ジュリー準備 ・ 班員によるグループワーク ・ 1 月 13 日はセンター試験のため、会場を変更する（後日、メールで連絡） ※最終ジュリーまでに、必要に応じて各自、作業する。
第 7 回 2 月 3 日	最終ジュリー（最終講評会） ・ 13:00-15:00 で最終準備を行い、ジュリーは 15:00 ごろからを予定。

- 12月23日（土）は祝日（天皇誕生日）、1月27日（土）は修論最終ジュリーのため、演習は休講であるが、必要に応じて各自、作業されたい。
- 基本課題として、GIS（地理情報システム）を用いた社会・経済・空間データ分析を班員で分担して行う。GIS については、本演習開始前に行われる講義「都市情報の分析Ⅱ」（木6・7限、10/27～11/24）において、宇都宮市を題材に使用法の演習を行うので、履修を強くお勧めする。

## □成績評価 出席およびジュリー・提出物で評価する。

以上